

平成27年度(初年度)事業計画書

平成27年5月13日から12月31日まで

平成27年5月13日

笑顔つながるささやまステイ実行委員会

1 事業実施の方針

東日本大震災と福島第1原発事故により、福島県を中心として多くの人々が故郷を離れて仮設住宅で暮らすこととなった。また、避難区域等に指定されることなく、高い放射線下にありながら、十分な公的支援を受けられず、被ばくの不安を抱えながらの生活を余儀なくされている人々もいる。

そのような被災者に対して、保養プログラムを提供し、被災者の被ばくを低減するとともに、原発事故から4年たった今、被災者が何を必要としているかを調査し、被災者が必要とする支援ができる支援者とのつながりを築き、日常的な相談や援助を中心とする生活支援のできる環境を作る。

また、初年度の今年は、保養プログラムの準備・実施・報告それぞれの段階で、被災地および被災者の現状を広く伝え、支援の輪を広げることに力を入れる。

2 事業計画

(1) 夏休み保養プログラムの実施

放射線量の高い環境の中で暮らしている子どもたちが、汚染のほとんどない篠山に滞在(4泊5日)することで、子どもたちの被ばくを減らし、放射能を気にせずに自然の中で思いきり遊べる機会(川遊びや山登り)を提供する。

不安を抱えながら、子どもたちを守り育てているご両親やご家族にも、ホッとひと息つけるリフレッシュの場を提供するとともに、社会福祉士・看護師によるケアプログラムを実施し、子どもたちを守るために自分を見つめ直し、大切にすることに気づく機会を提供する。

また、参加者と地元住民や福島から篠山に避難移住されている方々が交流する場を設け、被災者・避難移住者それぞれが必要とする支援を調査し、継続的な支援につなげる。

(2) バザー&パネル展示の開催

バザーを開催し、避難移住されている方と地元住民が交流する機会を作るとともに、被災地の現状、篠山へ避難移住された方々の思い、今なお放射線量の高い福島等で暮らす方々の現状などを伝えるため、パネルや写真を展示し、さらに理解者・支援者の和を広げる。

(3) Facebookページの運営

東日本大震災から4年がたち、事故が過去のものとなりつつある今、より多くの人々に今なお不安を抱き暮らしている被災者の現状などを伝えるため、Facebook ページを使って情報発信する。

発信にあたっては、より広く深く理解してもらえるよう、笑顔つながるささやまステイの活動に留まらず、関連する情報をシェアする。

3 事業スケジュール

(1/2)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実行委員会	13	3 17	1 15 29	5 19		28	11	16
事業全般	★事業計画立案 ★予算立案							
保養プログラム	助成金申請 宿舎手配 バス手配		保養内容の詳細検討 食材手配	チラシ作成 ボランティア手配 ★スタッフ ボランティア研修 寄付金集め	保養 ★ふりかえり 報告書作成 助成金 決算報告			

事業報告・決算報告は次年度1月の総会で行う

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実行委員会(予定)	13	3 17	1 15 29	5 19		28	11	16
バザー&パネル展示						写真パネル 作成 バザー準備	★バザー	★ふりかえり
Facebookによる 情報発信		★Facebook ページ開設						
		活動内容など、随時情報発信						